

事務事業名(細目)	スカイピラさのう整備事業	担当部課	観光交流課
予算コード	06 - 01 - 03 - 304 - 01		
款: 農林水産業費	項: 農業費	目: 農業振興費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く《社会増進》	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	観光誘客及び市内滞在時間の拡大を図るため、都市生活者等に自然に親しむ機会を与え、都市との交流人口を増加させるために、朝来市農林業体験実習館「スカイピラさのう」と付帯施設の適正な整備を行う。			
事業の受益者(対象者)	さのう高原利用者(スカイピラさのう、その他施設含む)	受益者数(対象者数)	13,222	単位 人
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ■スカイピラさのう <ul style="list-style-type: none"> ・高圧受電盤の改修工事 ・食器洗浄機更新 ■さのう高原施設内道路 <ul style="list-style-type: none"> ・法面崩落に伴う緊急工事。 ・配水池施設管理道路の補修整備 			

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
15.工事費	3,954,960	施設内道路補修(法面崩落、水道施設)、高圧受電盤取替	1,900,800
18.備品購入費	797,040	業務用食器洗浄機(入れ替え含む)	0
合計	4,752,000		1,900,800
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	4,752,000	
合計	4,752,000		1,900,800
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
13.委託料	設計監理委託料	25,725	0	0	0
15.工事費	施設等改修工事	5,600,000	781,272	1,900,800	3,954,960
18.備品購入費	施設備品購入費	0	425,066	0	797,040
事業費計		5,625,725	1,206,338	1,900,800	4,752,000
【4】正規職員人件費		456,000	558,000	301,000	670,220
【5】臨時職員人件費		134,000	134,000	0	0
【6】総合計		6,215,725	1,898,338	2,201,800	5,422,220
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	【10】その他			0	0
	【11】一般財源	6,215,725	1,898,338	2,201,800	5,422,220
	【12】合 計	6,215,725	1,898,338	2,201,800	5,422,220
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
《変化の理由》					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	エデュテイメントリゾートASAQOのオープンを受け、さのう高原を訪れる自乗車、大型バスの台数が増加している。水道施設、施設内道路の維持費が今後増加してくる見込みである。	地すべりの影響で建物の一部に支障をきたしている。また、施設の仕様や周辺付帯施設(テニスコート・パターゴルフ)など現在の観光ニーズにあわなくなっている。	
今後の方向性、見通し等	水道施設、施設内道路の管理体制をこれまで以上に強化し、事故等が発生しないよう心の注目を払う必要がある。	施設のあり方やさのう高原全体の今後のあり方について、地元と協議しながら検討していく必要がある。	

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
≪変化の理由及びそれへの対応策≫ 				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	トイレ、風呂、洗面などが共同になっており、また大部屋の和室しかなく、個人観光ニーズには対応しづらくなっている。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	天空のリゾート水ノ山 峰山高原リラクシア
【3】代替サービスの有無	無

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	1	拡充	市内の豊かな自然環境を活かし地域振興と観光振興のために設置している施設であり、施設の管理上、必要な整備は継続して実施していく。整備内容については、毎年度、安全に問題がある場合や利用に支障をきたす場合など、緊急性や必要性を判断し実施している。
A 事業実施の必要性	1	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	1	拡充	施設管理上、必要性や緊急性を判断し、整備を実施する。 (スカイピラさのう維持管理事業は、抜本的見直しの必要あり)
A 事業実施の必要性	1	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	施設の在り方の改善も含めた改善見直しを図ること。
継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	観光協会等支援事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 002 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増促進)	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	観光振興を図り、交流人口を増加させ、地域産業、経済の発展につなげて市の活性化に寄与するため、市内観光協会事業及び市内観光イベント実行委員会へ補助を行う。			
事業の受益者(対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位 人
事業の実施内容等	<p>各観光協会、各イベント実行委員会等へ補助金による支援を行い、地域の活性化を図った。</p> <p>■観光協会 生野町観光協会(補助金:1,828千円) 和田山町観光協会(補助金:1,348千円) 朝来市山形町観光協会(補助金:741千円) 朝来市あさご観光協会(補助金:133千円)</p> <p>■イベント 和田山夏祭り(補助金:2,454千円) わだやま竹田お城まつり(補助金:1,068千円) 竹田秋祭り(補助金:67千円) 立霞峡さくら祭り(補助金:160千円) 山東夏祭り(補助金:1,264千円) あさご夏祭り(補助金:1,686千円) へいくろう祭(補助金:182千円) 銀谷祭り(補助金:1,286千円)</p>			

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)	
14.使用料及び賃借料	879,120	花火大会安全設備設置	879,120	
18.負担金補助及び交付金	12,217,000	各観光協会、各イベント実行委員会への補助金	12,431,750	
合計	13,096,120		13,310,870	
財源内訳	特定財源	国庫支出金		
		県支出金		
		地方債	2,000,000	過疎地域自立促進特別事業債
		その他	8,000,000	ふるさと創生基金繰入金
	一般財源	3,096,120		2,507,870
合計	13,096,120		13,310,870	
国庫支出金を除いた比率		100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

[1]節区分	[2]説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
12.役務費	花火大会安全設備設置手数料	220,500	0	0	0
14.使用料及び賃借料	花火大会安全設備資機材借上	0	1,361,880	879,120	879,120
18.備品購入費	花火大会目隠しネット	491,400	0	0	0
18.負担金補助及び交付金	各観光協会、各イベント実行委員会への補助金	13,258,000	12,443,000	12,431,750	12,217,000
事業費計		13,969,900	13,804,880	13,310,870	13,096,120
[4]	正規職員人件費	6,994,000	13,089,000	11,388,000	5,003,350
[5]	臨時職員人件費	1,339,000	1,499,000	2,389,000	387,400
[6]	総合計	22,302,900	28,392,880	27,087,870	18,486,870
財源内訳	特[7]	国庫支出金		0	0
	定[8]	県支出金		0	0
	財[9]	地方債		2,000,000	2,000,000
	源[10]	その他		8,003,000	8,000,000
	[11]	一般財源	22,302,900	28,392,880	16,284,870
[12]	合計	22,302,900	28,392,880	27,087,870	18,486,870
[13]	国庫支出金を除いた比率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

[1]事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
補助団体数	団体	12	12	12	12
<p>≪変化の理由≫ 観光団体の数に変化はない。</p>					
[2]事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
観光客入込客数	千人	2,594	2,618	2,450	2,293
イベント参加者数	人	106,000	102,000	97,500	114,600
<p>≪変化の理由≫ 竹田城跡の入込数は平成26年度をピークに減少傾向にあり、市内全体の総観光客入込数も減少傾向にある。平成28年度については「へいくろう祭り」が中止になったものの、総イベント参加者数は増加している。</p>					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	観光協会については、統合しておらず、旧町ごとにあり、事業内容も規模、会員構成も異なっている。	地域住民の高齢化や、事業所の減少により、人的、財政的に既存イベントの継承が困難になってきているものがある。	
今後の方向性、見直し等	市内の観光資源を活かし、過疎観光や滞在観光を推進していくためにも協会の連携や統合を促進していく。	既存イベントの必要性や効果、規模を検証しながら有効な実施方法について支援していく。	

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
観光客入込客数	8,598	10,845	11,056	8,062
<変化の理由及びそれへの対応策> 支所など観光協会事務に従事する職員の増減により人件費が増減している。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	観光連絡協議会による情報の共有の必要や市内の観光協会の一歩の促進 夏祭りの継続と資金援助の要望
【2】近隣市町で提供されて いるサービス水準との比較	近隣自治体も同様に観光協会と連携して観光振興を図っている。 豊岡市町では観光協会の法人化がされている。 養父市では観光協会が一本化している。
【3】代替サービスの有無	無し

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	現状の補助制度を前提に、観光振興や地域の賑わいづくりを 図り、地域産業、経済の発展につなげていくために、市内観光協 会事業及びイベント実行委員会へ補助を継続し、育成支援を 図っていく。事業には応分の負担を導入しているが、夏祭り等に ついては、継続が困難になってきている事業もあり、実施方法等 の改善が求められる。また、観光協会については、市内の観光 資源の連携による観光振興施策の展開や、団体として成熟を 図っていくためにも、統合の動きを促進・支援していく必要がある。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	・観光協会統合の可能性について、議論を深める必要が ある。 ・観光イベントへの補助金については、イベントごとの評価 を行い、費用対抗などの検証も必要である。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	歴史・文化的に一本化が難しいのは理解できる。しかし、それぞれの協会が金銭的に存続が難しくなっ てきている事を考えると、各協会がばらばらに宣伝・活動するのは無駄が多いのではないか。 これまでの事業を継承していくことも必要であり、子どもたちの記憶に残していくことも必要だが、補助金 検討委員会等の意見も踏まえ、一本化等を含めた今後の在り方を検討していく必要があるのではないか。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	但馬・食文化まつり事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 004 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増促進)	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	平成6年に開催された「但馬・理想の都の祭典」イベント「但馬・食文化プラザ」の趣旨である「但馬の食文化の継承と創造、交流人口の創出」の精神を継承して、但馬の3市2町がそれぞれの特色を活かした食文化を紹介するなど情報を地域内外に広く発信し、農村と都市の交流を深めて、但馬地域の産業振興に寄与するため但馬・食文化まつりを開催する。			
事業の受益者(対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位 人
事業の実施内容等	■但馬・食文化まつり (1)テーマ:食材の宝庫—但馬・お国自慢 (2)開催時期:10月15-16日 (3)主催:但馬・食文化まつり実行委員会 (4)入場者数:約36000人 (5)イベント:お国自慢パザール、但馬・うまいもん村、展示・PR、ステージ・芸能披露ほか			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
19.負担金補助及び交付金	3,500,000	但馬・食文化まつり補助金	3,000,000
合計	3,500,000		3,000,000
財源内訳			
特定財源			
国庫支出金			
県支出金			
地方債			
その他	3,500,000	ふるさと創生基金繰入金	3,000,000
一般財源	0		0
合計	3,500,000		3,000,000
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
11.需用費	芝生修繕	0	151,833	0	0
19.負担金補助及び交付金	但馬・食文化まつり補助金	3,000,000	4,000,000	3,000,000	3,500,000
事業費計		3,000,000	4,151,833	3,000,000	3,500,000
【4】正規職員人件費		5,003,000	3,551,000	3,575,000	1,782,280
【5】臨時職員人件費		0	0	26,000	113,750
【6】総合計		8,003,000	7,702,833	6,601,000	5,396,030
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	源【10】その他	3,000,000	4,000,000	3,000,000	3,500,000
	【11】一般財源	5,003,000	3,702,833	3,601,000	1,896,030
【12】合計		8,003,000	7,702,833	6,601,000	5,396,030
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
出店数	団体	74	76	75	75

《変化の理由》
開場のキャパシティは変わらないので出店数に大きな変化はない。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
参加者数	人	29,000	34,000	32,000	36,000

《変化の理由》
平成25年度は悪天候により客足が遠のいた。平成26年度は夢但馬2014のオープニングとして春に実施したため増加している。平成28年度は好天に恵まれたこともあり、過去最高の来場者となった。

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	平成31年度を最終に、実行委員会に対する但馬ふるさとづくり協会からの補助金がなくなるため、事業を継続するかどうかの判断を行う必要がある。		
今後の方向性、見直し等	市で事業を継続するかどうかの判断を行う必要がある。		

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
参加者数	276	227	206	150
<変化の理由及びそれへの対応策> 平成28年度は、経費の縮小の一方で来客数が増加した。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	朝来市内で最も集客力のあるイベントである。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	同様のイベントは、但馬まるごと感動市が豊岡市日高町にある但馬ドームで開催されている。
【3】代替サービスの有無	但馬まるごと感動市

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	実行委員会に対し、朝来市と但馬ふるさとづくり協会が補助金2分の1ずつを出して実施していたが、協会補助を平成29年度から縮小したうえで、平成31年度を最終に無くするため、イベントを廃止するか、市単独で縮小して継続するか、市の補助を拡大して現行どおり実施するか、抜本的見直しをする必要がある。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	・平成31年度を最後に、但馬ふるさとづくり協会からの補助金がなくなることを見据え、継続実施、縮小、廃止について検討する必要がある。 ・産業フェアといった形態を取り入れることも一考する。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	縮小しても続けていく方向で検討すること。 費用対効果、予算減少化でのイベントのあり方を検討すべきである。 縮小した場合どのような内容で開催できるのか一考願いたい。(各種大型店舗との連携・協力。イオンで開催する等)
継続実施	
改善見直し	
○ 抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	観光交流キャンペーン事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 200 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く(社会増促進)	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	朝来市への観光入込客数など交流人口の増加により、市の観光振興、地域産業及び地域の活性化に寄与するため、戦略的な観光PRを行う。			
事業の受益者(対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位 人
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ■朝来市観光PR事業 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、雑誌、新聞等による観光PRや広告宣伝 ・旅行エージェント等へのプロモーション活動 ・但馬のまほろばPEPPER観光案内業務 ・各種観光展(ツーリズムEXPO 等) ■朝来市観光大使、元気あさご応援隊事業 <ul style="list-style-type: none"> ・観光大使、応援隊の活動支援 ■朝来市ぶらり観光スタンプラリー事業 <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光促進(市内周遊事業) ■ちやすりんPR事業 <ul style="list-style-type: none"> ・朝来市のマスコットキャラクター「ちやすりん」を活用した観光PR、ノベルティ配布 ■あさごフォトコンテスト事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市内風景を被写体としたフォトコンテストの実施。 ■交通対策事業 <ul style="list-style-type: none"> ・但馬周遊バス「たじまわる」負担金: 県2/3、実施市町1/3 ■観光交流キャンペーン事業人件費 ■地域おこし企業人交流プログラム事業 			

2. 事業費等(単位:円)

区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
7.賃金	0	【人件費別途計上】(嘱託職員賃金1,908,899)	0
8.報償費	209,728	講師謝礼、観光大使謝礼、フォトコン賞金	358,775
9.旅費	1,129,260	セミナー、会議、プロモーション、キャンペーン旅費	747,650
11.需用費	2,004,385	消耗品、朝来市観光パンフレット印刷	5,182,114
12.役務費	1,015,088	郵便、手数料、広告料	2,965,694
13.委託料	983,692	PEPPER観光案内業務	802,736
14.使用料及び賃借料	204,500	イベント資機材借上料、出展料	334,332
19.負担金補助及び交付金	2,064,000	たじまわる負担金、地域おこし企業人負担金【人件費別計上(6,601,015)】、JAF会員負担金	2,338,000
合計	7,610,653		12,729,301
財源内訳	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
その他			
一般財源	7,610,653		12,729,301
合計	7,610,653		12,729,301
国庫支出金を除いた比率			100.00%

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
7.賃金	別計上	0	0	0	0
8.報償費	講師謝礼、観光大使謝礼、フォトコン賞金	658,500	55,800	358,775	209,728
9.旅費	セミナー、会議、プロモーション、キャンペーン旅費	535,200	380,230	747,650	1,129,260
11.需用費	消耗品、朝来市観光パンフレット印刷	5,454,690	5,052,244	5,182,114	2,004,385
12.役務費	郵便、手数料、広告料	3,206,827	1,607,990	2,965,694	1,015,088
13.委託料	観光案内業務、調査委託、営繕委託	181,300	0	802,736	983,692
14.使用料及び賃借料	イベント資機材借上料、出展料	1,176,500	0	334,332	204,500
15.工事費	観光案内看板設置	4,586,400	0	0	0
18.備品購入費	備品購入費、着ぐるみ製作	0	27,000	0	0
19.負担金補助及び交付金	たじまわる負担金、地域おこし企業人負担金(人件費で別計上)、JAF会員負担金	0	2,526,000	2,338,000	2,064,000
事業費計		15,799,417	9,649,264	12,729,301	7,610,653
[4]正規職員人件費		12,116,000	8,984,000	14,207,000	18,257,480
[5]臨時職員人件費		535,000	3,078,000	2,259,000	1,831,700
[6]総合計		28,450,417	21,711,264	29,195,301	27,699,833
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	源【10】その他	413,540	273,110	17,850	0
	【11】一般財源	28,036,877	21,438,154	29,177,451	27,699,833
	【12】合計	28,450,417	21,711,264	29,195,301	27,699,833
	【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年度			
		25年度	26年度	27年度	28年度

＜変化の理由＞

【2】事業の成果を表す数値	単位	年度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
観光客入込客数	千人	2,594	2,618	2,450	2,293

＜変化の理由＞

竹田城跡の入込数は平成26年度をピークに減少傾向にあり、市内全体の総観光客入込数も減少している。

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	竹田城跡のブームが落ち着いた観光客数は下降傾向である。	朝来市での観光等の滞在時間が短い。	
今後の方向性、見直し等	竹田城跡については、一定の観光客を確保するため引き続き誘客対策に努力していくとともに、海外からの来朝客数が増えていることからインバウンドに力をいれていく。	竹田城跡だけに頼るのではなく、日本酒蔵の歴史を契機として、体験型観光や周遊観光を推進し、市内滞在時間を増やし、消費の拡大を図っていく。	

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
観光客入込客数	10,968	8,293	11,916	12,080
≪変化の理由及びそれへの対応策≫ 平成27年度、平成28年度は、地域おこし協力隊と地域おこし企業人を課に配属し、観光プロモーション活動を積極的に展開したため、入件数が増大している。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	・観光の受入れ体制ができていない ・観光振興による朝来市の産業の活性化 ・竹田城跡への観光客の減少による経済活動の影響や誘客対策の促進
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	各自自治体ごとで独自の取り組みを行っており、サービス水準は比較できない。
【3】代替サービスの有無	無

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	3	○ 拡充	竹田城跡の入込客数が減少傾向にあるなかで、市民意向調査でも、観光イメージ・ブランドの確立、都市圏に向けた情報発信、グルメ・特産品の開発といった施策への期待が高い。 東京オリンピックをひかえ、インバウンド需要など観光入込客数の増加による市の観光振興、地域産業育成、地域の活性化など地方創生の観点から関係団体と協働しながら、市が率先して、戦略的にプロモーションを実施し、施策拡大を図っていく必要がある。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	東京オリンピックをひかえ、インバウンド需要など観光入込客数の増加による市の観光振興、地域産業育成、地域の活性化など地方創生の観点から関係団体と協働しながら、市が率先して、戦略的にプロモーションを実施し、施策拡大を図っていく必要がある。
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	3	○ 拡充	竹田城跡への入込客数が減少傾向にあるなかで、市民意向調査でも、観光イメージ・ブランドの確立、都市圏に向けた情報発信、グルメ・特産品の開発といった施策への期待が高い。 東京オリンピックをひかえ、インバウンド需要など観光入込客数の増加による市の観光振興、地域産業育成、地域の活性化など地方創生の観点から関係団体と協働しながら、市が率先して、戦略的にプロモーションを実施し、施策拡大を図っていく必要がある。
事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	竹田城跡への入込客数が減少傾向にあるなかで、市民意向調査でも、観光イメージ・ブランドの確立、都市圏に向けた情報発信、グルメ・特産品の開発といった施策への期待が高い。 東京オリンピックをひかえ、インバウンド需要など観光入込客数の増加による市の観光振興、地域産業育成、地域の活性化など地方創生の観点から関係団体と協働しながら、市が率先して、戦略的にプロモーションを実施し、施策拡大を図っていく必要がある。
事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	【拡充3名/継続実施1名/改善見直し1名】 そもそも朝来の観光振興の目的が何かをもう一度振り返る必要がある。竹田城だけでなく、その城下町をどう回遊してもらえるかなど、面ですぐ施策が必要だ。また、観光商品の拡充、食の充実など、観光単独ではなく「観光×●●」と考える必要があるだろう。City Marketingの中で、組織総合力を発揮することが必要。空き家活用なども含め、まちづくり・移住とどう連動させるか、検討要。
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
○ 廃止	

【○】は1か所のみ!

11. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	特産品等の予算が少なすぎる。 高齢者・外国人などを想定し、もっと積極的に観光資源の開発を行うべきである。特に現在の軸である竹田城は再度観光資源としてのブラッシュアップが必要である。例えば、高齢者が登城し易い様な手立てを検討など、まだ伸びしろがある。その上で、生野銀山・神子畑・竹田城などの市内観光間の連携を促進させるべきである。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
○ 廃止	

事務事業名(細目)	観光施設整備事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 300 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く《社会増促進》	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	観光客誘客につながる管理施設を安心して安全な施設として適切に整備することで、市の観光振興、地域の活性化に寄与させる。 観光誘客及び市内滞在時間の拡大し、観光客への利便性を図るため観光振興、地域の活性化を図るため観光視閲を整備する。			
事業の受益者(対象者)	観光客数	受益者数(対象者数)	2,293,496	単位 人
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ■竹田城アプリPUSH配信 <ul style="list-style-type: none"> ・PUSH配信機能利用料 ■黒川温泉 <ul style="list-style-type: none"> ・給油ポンプ交換工事 ・浴槽レジオネラ薬品洗浄工事 ■よふと温泉 <ul style="list-style-type: none"> ・厨房換気扇コントローラー設置工事 ・男子更衣場エアコン室内機修繕工事 ■神子畑運鉱場シクナー <ul style="list-style-type: none"> ・上部管理用通路剥落防止・内部管理用階段維持補修工事 ・残置機材等レイアウト工事 ・池周辺転落防止柵設置工事 ■立雲峡 <ul style="list-style-type: none"> ・登山口来客カウンター設置工事 			

2. 事業費等(単位:円)

区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
11.需用費	0		105,909
13.委託料	228,960	設計監理委託料	0
14.使用料及び賃借料	1,080,000	竹田城アプリPUSH配信機能利用料	1,188,000
15.工事費	5,754,650	施設整備工事請負費	1,139,400
合計	7,063,610		2,433,309
財源内訳	特定国庫支出金		0
	特定県支出金	1,612,000	観光関連施設整備事業補助金
	地方債	0	0
	その他	0	0
	一般財源	5,251,610	
合計	7,063,610		2,433,309
国庫支出金を除いた比率	74.35%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
11.需用費	消耗品、修繕費等	0	841,320	105,909	0
12.役務費	手数料	0	216,000	0	0
13.委託料	設計管理業務	2,969,358	0	0	228,960
14.使用料及び賃借料	システム使用料	0	255,395	1,188,000	1,080,000
15.工事費	施設整備工事請負費	28,373,520	3,091,810	1,139,400	5,754,650
事業費計		31,342,878	4,404,525	2,433,309	7,063,610
【4】正規職員人件費		1,054,000	1,696,000	950,000	432,190
【5】臨時職員人件費		0	0	0	16,250
【6】総合計		32,396,878	6,100,525	3,383,309	7,512,050
財源内訳	【7】国庫支出金	0	0	0	0
	【8】県支出金	1,000,000	0	0	1,812,000
	【9】地方債	23,200,000	0	0	0
	【10】その他	0	0	0	0
	【11】一般財源	8,196,878	6,100,525	3,383,309	5,700,050
【12】合計	32,396,878	6,100,525	3,383,309	7,512,050	
【13】国庫支出金を除いた比率		96.81%	100.00%	100.00%	74.35%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
施設面積(温泉・森林総合施設)	m ²	1773.7	1773.7	1773.7	1773.7
<<変化の理由>> 観光施設面積に変化はない。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
<<変化の理由>>					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	温泉施設については、経年劣化による建物改修や設備更新が発生してきている。また、突発的な設備等の故障も多い。		
今後の方向性、見直し等	優先順位を検討しながら年次的な改修を実施していくほか、突発的な修繕については、適切に対応していく。		

6. 成果単位あたり金額(円)

[1]単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度

《変化の理由及びそれへの対応策》
 平成25年度は、よふど温泉の改修工事があり、平成28年度は神子畑選鉱場の補修工事等があり増えている。各年度の整備内容により異なっている。施設整備については、毎年度計画的に実施していくほか、年度途中で突発的に発生する修繕もあるため利用者サービスの向上を基本に実施していく。

7. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	・黒川温泉は、道路事情や交通アクセスに不利がある。 ・神子畑選鉱場は、年々入込客数が増加しているが、受け入れ整備が不十分。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	・とがやま温泉天女の湯(蓑父市) ・やぶ温泉但馬楽座(蓑父市) ・かさかた温泉せせらぎの湯(神河町)
[3]代替サービスの有無	無

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	新規建設の観光施設整備は、数年実施しておらず、既存施設の改修・修繕が主な内容となっている。温泉施設については、市が施設整備を行い運営等は指定管理者制度を導入し、維持修繕については指定管理者が行い、一定額以上の改修工事を市が実施することとなっている。 市内観光において、誘客できる有効な観光施設として、利用者のサービス向上のため、老朽化に伴う施設改修や設備の更新などを年次的に継続して実施していく必要がある。
事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	3	○ 拡充	・日本遺産に認定された神子畑選鉱場については、観光客も多く訪れており、また、メディアによる取材も増えていることから、地元とも調整し、必要な整備を行う必要がある。
事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	支所を中核とした実施対策の推進、施設間の連携の促進、幅広い利用者を想定した宣伝の実施と評価の実施、水回り(トイレ・お風呂など)などの整備促進、バリアフリーなどの観点からの施設の点検などを進めるべきである。また、職員施設の利用を促したい。
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	山城サミット開催事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 201 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで働く【社会増進】	事業開始年度	評価区分	評価
3	朝来の強みを活かした観光振興	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	全国山城サミット連絡協議会や全国城郭管理者協議会の活動を通し、各城郭と情報共有し、相互の連携を強化し、竹田城跡の観光施策に活用する。また、全国山城サミット連絡協議会については固定事務局を担い、情報発信や自治体間の連携強化に努める。			
事業の受益者(対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位 人
事業の実施内容等	○全国山城サミット連絡協議会関連 ・「第23回全国山城サミット竹田大会」への参加(平成28年10月) ・情報共有に関する課題及び対応策のアンケート調査 ○全国城郭管理者協議会関連 ・「全国城郭管理者協議会」総会への参加(長野県上田市:平成28年7月)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
9.旅費	426,330	山城サミット(米原)参加、次回打合せ、全城郭総会参加	168,950
11.需用費	0	各種消耗品	9,084
12.役務費	31,420	山城サミット事務局書類郵便	1,886
19.負担金補助及び交付金	25,000	全国城郭管理者協議会負担金	25,000
合計	482,750		204,920
財源内訳	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債 その他		
一般財源	482,750		204,920
合計	482,750		204,920
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
8.報償費	H25サミット講師等謝礼、H26全城郭総会表彰記念品	388,400	111,000	0	0
9.旅費	職員出張旅費、H25サミット開催時講師等旅費	296,940	78,440	168,950	426,330
11.需用費	各種消耗品	3,086,431	171,821	9,084	0
12.役務費	山城サミット事務局郵送料等	399,252	108,000	1,886	31,420
13.委託料	H25サミット開催時準備委託料等	467,223	0	0	0
14.使用料及び賃借料	H25サミット開催時資材・土地等使用料	1,769,400	0	0	0
19.負担金補助及び交付金	全国城郭管理者協議会負担金	25,000	25,000	25,000	25,000
事業費計		6,432,646	494,261	204,920	482,750
【4】正規職員人件費		8,135,000	5,320,000	2,240,007	997,210
【5】臨時職員人件費			268,000		
【6】総合計		14,567,646	6,082,261	2,444,927	1,479,960
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	源【10】その他		222,000	0	0
	【11】一般財源	14,567,646	5,860,261	2,444,927	1,479,960
	【12】合計	14,567,646	6,082,261	2,444,927	1,479,960
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
全国山城サミット連絡協議会加盟自治体数	市町村	89	89	90	93
<変化の理由> 毎年加盟したいとの問い合わせを受けており、昨今の城ブームを受けてのことと考えられる。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
全国山城サミット参加自治体数	市町村	19	15	24	19
<変化の理由> サミットの開催は、加盟市町村の持ち回りとなっており、開催地の地理的条件などにより増減している。					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	山城サミット加盟自治体は増加傾向にある一方で、山城サミット参加自治体数はそこまで増えていない。	サミットに参加することの意義をいかに打ち出せるかが課題である。	
今後の方向性、見直し等	現在、城ブームは続いており、今後もサミット加盟自治体数は増加することが見込まれるが、各自治体とも予算が付かず参加自治体は増えないことが予想される。	加盟自治体間の情報共有を強化し、サミット加盟の意義を打ち出すとともに、固定事務局として参加自治体数の増加を目的に、サミット開催自治体を支援する。	

6. 成果単位あたり金額(円)

[1]単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
全国山城サミット参加自治体数	766,718	405,484	101,872	77,893

「<変化の理由及びそれへの対応策>
平成25年度は、本市で山城サミットを開催したことにより突出しているが、その他の年は人件費の配分により変動している。
今後も参加自治体数が増加するよう、山城サミットの情報発信や平日からの情報共有・連携に努めていく。
各地で山城ブームが広がれば、山城で知名度のある竹田城跡を訪れる観光客が増えるものと考える。」

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	山城を活用したまちづくりを推進等している自治体は積極的な参加がある。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	全国山城サミット連絡協議会は、姫路市・宍粟市・上郡町が、全国城郭管理者協議会は、姫路市が加盟している。
【3】代替サービスの有無	公益財団法人日本城郭協会は、世界各国の城郭に関する研究、調査事業を実施している協会 で、日本100名城を定めた。古代山城サミット実行委員会は、飛鳥時代から奈良時代に築造された山城を対象としている。

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	竹田城跡の入城者数が減少している今こそ新たな施策を実施する必要があり、山城サミット・全城郭を通じて他の城郭と情報共有し、連携し、お互いの施策を参考にすることは、竹田城跡の活用を考える上で重要である。 今後も全城郭の総会・研修会に参加し、各城郭における現状や施策について積極的に情報共有を行う。また山城サミットについても、固定事務局としてサミットの開催のサポートを行い、加盟自治体間のネットワーク強化・拡大のため必要な施策を実施する。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	・竹田城跡への入込が減少する中で、他の城跡と情報共有し、連携することが、安定した入込を確保する上で必要。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	2次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	竹田城活用まちづくりプログラム事業	担当部課	観光交流課
予算コード	07 - 01 - 03 - 202 - 01		
款: 商工費	項: 商工費	目: 観光費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	3	好きなまちで働く《社会増促進》	事業開始年度	H 25	評価区分	事業種別	1.ソフト事業	評価	
事業の目的	竹田城跡が「天空の城」として有名になる一方で、竹田のまちを含む周辺エリアを訪れる観光客は少ない。周辺エリアの観光スポット発掘を行うとともに、竹田城跡を含めてより良いおもてなしができるよう必要な施策を実施する。								
事業の受益者(対象者)	竹田城跡観光客及び竹田地区住民			受益者数(対象者数)	360,000	単位	人		
事業の実施内容等	・竹田城跡ライトアップ支援事業 【ライトアップ実績】 ・4月 1日～4月17日 午後7時～午後10時 ・4月29日～5月 8日 " " ・7月16日～7月24日 " " ・8月 6日～8月18日 午後7時～午後11時 ・10月8日～10月16日 午後6時～午後11時 ・11月の土日祝 午前4時～午前5時30分、午後5時～午後10時 ・12月23日～12月30日 午後5時～午後10時 ・12月31日～1月 3日 午後5時～午前0時 ・1月 4日～2月28日 午後5時～午後10時								

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
11.需用費	338,040	竹田城跡チラシ印刷費	44,604
12.役員費	0	竹田城跡親子見学会イベント保険料	1,450
15.工事費	0	竹田城跡ライトアップ事業に伴う電源工事	915,840
19.負担金補助及び交付金	2,880,000	竹田城跡ライトアップ事業補助金	3,200,000
合計	3,218,040		4,161,894
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源	3,218,040	4,161,894
	合計	3,218,040	4,161,894
	国庫支出金を除いた比率	100.00%	

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
11.需用費	各種印刷費(イベントチラシ、まちなかパンフ)	0	118,800	44,604	338,040
12.役員費	竹田城跡親子見学会イベント保険料	0	0	1,450	0
15.工事費	竹田城跡ライトアップ事業に伴う電源工事費	0	0	915,840	0
18.備品購入費	甲冑購入費	1,311,000	2,114,640	0	0
19.負担金補助及び交付金	竹田城跡ライトアップ事業補助金	0	0	3,200,000	2,880,000
事業費計		1,311,000	2,233,440	4,161,894	3,218,040
【4】正規職員人件費		4,759,000	4,948,000	2,192,722	2,948,310
【5】臨時職員人件費			268,000		
【6】総合計		6,070,000	7,449,440	6,354,616	6,166,350
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	財【10】その他			0	0
	【11】一般財源	6,070,000	7,449,440	6,354,616	6,166,350
【12】合計	6,070,000	7,449,440	6,354,616	6,166,350	
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
《変化の理由》					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
竹田まちなか宿泊施設利用者数	人	2,967	3,390	4,093	4,820
竹田城跡入込者数	人	507,589	582,282	416,008	324,715
《変化の理由》 宿泊施設の新たな開業により、全体で見ると増加傾向にあるが、宿泊施設により内容は異なる。 ライトアップ鑑賞ディナー・宿泊プランが企画されるなど一定の効果があった。 竹田城跡への観光客は、平成22年度の約5万人から倍々で増加していたが平成26年度をピークに減少傾向にある。					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	ライトアップ事業は、商工会がH26年度から取り組んでいるが、市補助がなくなるH30年度以降の実施が懸念される。		
今後の方向性、見直し等	商工会等とH30年度以降のライトアップ実施について協議する。		

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
竹田まちなか宿泊施設利用者数	2,046	2,197	1,553	1,279
竹田城跡入込者数	12	13	15	19
≪変化の理由及びそれへの対応策≫ 数値自体は小さくなっているが、その年によって実施施策が異なり、一概に比較はできない。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	H27年度に開催された「竹田地域ビジョン会議Ⅱ」において、竹田地域における観光振興施策の必要性が提言された。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	他市町において観光振興事業は、主に観光協会など民間団体において行われている。
【3】代替サービスの有無	和田山町観光協会、NPOあさご創生プロジェクト、朝来市商工会等

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	竹田のまちの観光振興は、観光客だけでなく地域住民にも波及効果が想定されるものであり、竹田地域ビジョン会議においてもその必要性が認識されている。平成26年度から朝来市商工会が実施している竹田城跡ライトアップについて、27年度から向こう3年間補助を実施している。まちなかの観光振興は、周遊観光の推進として他事業でも取り組んでおり、総合的、一体的に取り組んでいく方が効果的であり、事業の目的及び内容について、抜本的に見直す必要がある。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	1	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	27年度から29年度までの3年間を補助期間としていることから、実施主体、内容について見直しが必要である。
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	3		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	27年度から29年度までの3年間を補助期間としていることから、実施主体、内容について見直しが必要である。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	1	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	○ 抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	現状の手法には新鮮味がかけ始めている。商工会への補助を停止し、観光協会などのこれまでとは違う事業主体・補助金の使い方で事業展開を検討する。機材はあるため、予算(メインは電気代)の捻出について商工会等と協議を行っていくこと。機材の取り扱いなどには留意が必要である。ライトアップについて新鮮味が欠けてきているため、さらなるプレミアム感を持たせることが必要である。
継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	